

## 事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

### 1 事業者等の概要

氏名又は名称	東洋観光事業株式会社							
代表者名	氏名	小林 史成	役職名	代表取締役社長				
主たる事務所の所在地	長野県茅野市北山4035-170							
主たる事業の分類	大分類	M 宿泊業、飲食サービス業						
	中分類	75 宿泊業 (小分類: 旅館、ホテル)						
主たる事業の概要	ホテル、観光、別荘・不動産事業							
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者						
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者						
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者						
	<input type="checkbox"/>	上記以外 (任意提出) の事業者						
原油換算エネルギー使用量	3,462	k1	その他ガス排出量合計	0	t-CO <sub>2</sub>	自動車の台数	18	台

### 2 計画期間及び報告対象年度

計画期間	26	年度	~	28	年度	報告対象年度	28	年度
------	----	----	---	----	----	--------	----	----

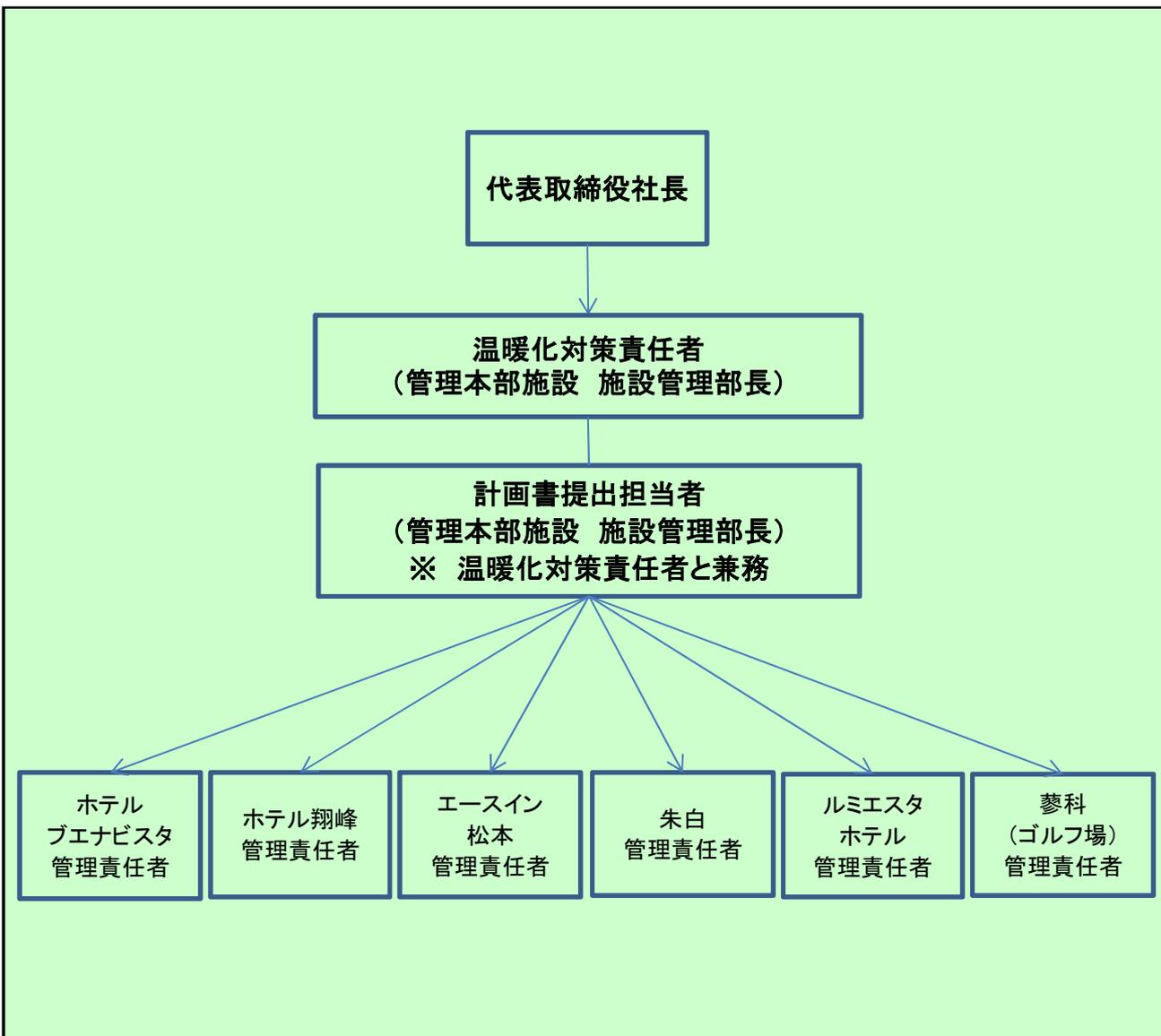
### 3 計画書(報告書)の公表方法等

<input checked="" type="checkbox"/>	ホームページ	<a href="http://www.alpico.co.jp/tokan/">http://www.alpico.co.jp/tokan/</a>
<input type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

- 従業員の省エネ意識向上（こまめな消灯、階段利用等の慣習化）を図り、運用面での省エネを推進。
- 老朽化した熱源、空調機器の高効率設備への更新を順次進め、ハード面での省エネ化を推進。
- 老朽化設備の高効率設備への更新だけでなく、建物内空調システム等の抜本的な見直しを進め（温水／冷水源の分離等）、効率的なエネルギー活用を検討していく。

5 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



様式1号  
(総括票)

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標等の状況

基準年度	基準排出量	7,904	t-CO <sub>2</sub>	寄与度の合計		単位		
25年度	調整後排出量	6,726	t-CO <sub>2</sub>	基準原単位		t-CO <sub>2</sub> /		
目標年度	目標排出量	7,667	t-CO <sub>2</sub>	目標原単位		t-CO <sub>2</sub> /		寄与度の合計から求めた目標削減率 <sup>※</sup>
28年度	目標削減率	3.00	%	目標削減率	3.00	%		3
目標設定に関する説明	<p>○目標排出量については、省エネ法（年平均1%の原単位削減義務）に基づく削減計画とリンクさせ設定。  <sup>※</sup> 具体的な削減施策としては、老朽化設備更新時に順次高効率機器への更新を進めエネルギー使用量の削減を図っていく。                      ○原単位設定にあたっては、来客数により使用エネルギー量が大きく変動するホテルブエナについては売上金額、他の施設については延床面積にて設定。</p>						<p>※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する（以下同じ）。</p>	
第一年度	排出量	7,741	t-CO <sub>2</sub>	寄与度の合計		単位		
	調整後排出量	7,708	t-CO <sub>2</sub>	原単位		t-CO <sub>2</sub> /		寄与度の合計から求めた目標削減率 <sup>※</sup>
26年度	削減率	2.06	%	削減率		%		7.3
排出量等の増減理由	<p>○ホテルブエナビスタにおいてシャンデリア等照明のLED化、高効率パッケージエアコンへの入替を行い、ハード面の省エネ施策を実施。結果として使用電力量の削減へと繋がり、CO2排出量を削減することができた。                      ○ホテル翔峰において宿泊客のいない時間帯の空調設備停止（吸収式冷温水発生器）を徹底。結果として重油使用量の削減へと繋がり、CO2排出量を削減することができた。</p>							
第二年度	排出量	7,724	t-CO <sub>2</sub>	寄与度の合計		単位		
	調整後排出量	7,700	t-CO <sub>2</sub>	原単位		t-CO <sub>2</sub> /		寄与度の合計から求めた目標削減率 <sup>※</sup>
27年度	削減率	2.27	%	削減率		%		8.1
排出量等の増減理由	<p>○ホテルブエナビスタ内照明（シャンデリア等含む）及びホテル翔峰内照明のLED化を実施したことによる電力使用量削減効果が、CO2排出量削減の主要因。                      ○ホテル翔峰にて老朽化ボイラ1基を更新したこと、加えてお客様のチェックアウト後の空調停止の徹底による重油使用量の削減もCO2排出量削減に寄与。</p>							
第三年度	排出量	7,872	t-CO <sub>2</sub>	寄与度の合計		単位		
	調整後排出量	7,842	t-CO <sub>2</sub>	原単位		t-CO <sub>2</sub> /		寄与度の合計から求めた目標削減率 <sup>※</sup>
28年度	削減率	0.40	%	削減率		%		5.5
目標の達成状況及び排出量の増減理由	<p>○ホテルブエナビスタ内照明（バンケットホール等）のLED化を27年度に引き続き実施、また、高効率空調機への計画的な更新を実施したことにより、電力使用量の大幅な削減に成功。                      ○ただし、平成28年度中にホテル翔峰の全面改装を実施（客室の増室、浴場の増設）したことにより、重油使用量が前年比増加し、対前年ではCO2排出量増となった。</p>							

様式1号  
(総括票)

6の2 エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標等の状況

基準年度	基準排出量	0	t-CO <sub>2</sub>			単位		
25年度	調整後排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準原単位		t-CO <sub>2</sub> /		
目標年度	目標排出量		t-CO <sub>2</sub>	目標原単位		t-CO <sub>2</sub> /		寄与度の合計から求めた目標削減率 <sup>※</sup>
年度	目標削減率		%	目標削減率		%		
目標設定に関する説明								※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量	0	t-CO <sub>2</sub>			単位		
	調整後排出量		t-CO <sub>2</sub>	原単位		t-CO <sub>2</sub> /		寄与度の合計から求めた目標削減率 <sup>※</sup>
26年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第二年度	排出量	0	t-CO <sub>2</sub>			単位		
	調整後排出量		t-CO <sub>2</sub>	原単位		t-CO <sub>2</sub> /		寄与度の合計から求めた目標削減率 <sup>※</sup>
27年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第三年度	排出量	0	t-CO <sub>2</sub>			単位		
	調整後排出量		t-CO <sub>2</sub>	原単位		t-CO <sub>2</sub> /		寄与度の合計から求めた目標削減率 <sup>※</sup>
28年度	削減率		%	削減率		%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由								

様式1号  
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標等の状況

基準年度	基準排出量	65.4	t-CO <sub>2</sub>			
25年度						
目標年度	目標排出量		t-CO <sub>2</sub>	削減率		%
28年度						
目標設定に関する説明						
第一年度	排出量		t-CO <sub>2</sub>	削減率		%
年度						
排出量等の増減理由						
第二年度	排出量		t-CO <sub>2</sub>	削減率		%
年度						
排出量等の増減理由						
第三年度	排出量		t-CO <sub>2</sub>	削減率		%
年度						
目標の達成状況及び排出量の増減理由						

7 重点対策の実施状況

段階	連番	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I、II	1	燃料使用量等の定期的な把握						
	2	エコドライブの励行						
III、IV	—	次世代自動車の導入						

様式1号  
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	対策内容	計画		実績	
			実施 予定年 度	削減見込量 (t-CO <sub>2</sub> )	実施年度	推計削減量 (t-CO <sub>2</sub> )
1	エネ起	120201 COP改善のための機器更新	26、27	17	26、27	50
2	エネ起	120301 熱源機器の適正な台数制御	26	163	26	70
3	エネ起	150201 高効率ランプへの更新	26、27 28	50	27、28	70
4	エネ起	その他 給湯、空調設備システムの見直し、効率的なシステムへの更新	27、28	30	28	50
5						
6						
7						
8						
9						
10						

9 自然エネルギー源利用設備等の導入状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度

10 クレジット等に関する取組状況

クレジットの種類	単位	基準年度	計画期間	第一年度	第二年度	第三年度
グリーンエネルギー証書 (電気)	tCO <sub>2</sub>					
グリーンエネルギー証書 (熱)	tCO <sub>2</sub>					
J-クレジット制度により 創出されたクレジット	tCO <sub>2</sub>					
県が認証したクレジット	tCO <sub>2</sub>					
電気の利用に伴うもの	tCO <sub>2</sub>	1178		33	24	30
低炭素電力の利用	tCO <sub>2</sub>					

様式1号  
(総括票)

1.1 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出状況 (所、t-CO<sub>2</sub>)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上								
1,500k1以上 3,000k1未満								
1,500k1未満	6	7,904	6	7,741	6	7,724	6	7,872
合計	6	7,904	6	7,741	6	7,724	6	7,872

1.2 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出状況 (t-CO<sub>2</sub>)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	0	0	0	0
CH <sub>4</sub>	0	0	0	0
N <sub>2</sub> O	0	0	0	0
HFC	0	0	0	0
PFC	0	0	0	0
SF <sub>6</sub>	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

1.3 次世代車使用台数及び導入計画 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車				
電気自動車	1	1	1	1
燃料電池自動車				
クリーンディーゼル自動車				
その他				
合計	1	1	1	1
自動車総数	18	18	18	18
次世代車導入割合	5.6	5.6	5.6	5.6

様式1号  
(総括票)

1.4 中小企業支援

区分	内容
中小企業への省エネ診断	実績なし
その他	実績なし

1.5 交通対策

区分	実施内容
ノーマイカー通勤	なし
公共交通機関の利用促進	なし
来客者の交通対策	東洋観光事業㈱として送迎バスを運行（ホテル翔峰⇄ホテルブエナ及びホテルブエナ⇄松本駅）。
物流の合理化	なし

1.6 環境マネジメントシステム導入状況

番号	名称	導入年
1		
2		
3		

1.7 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度実績	ホテル翔峰、ブエナにおける産業廃棄物排出量削減に向け、従業員へのゴミの分別を徹底し産業廃棄物削減に取り組む。
第一年度実績	基準年度施策を継続。
第二年度実績	基準年度施策を継続。
第三年度実績	基準年度施策を継続。

1.8 自由記載欄

区分	内容	削減量(tCO <sub>2</sub> )
基準年度以前の取り組み	ブエナビスタ蒸気ボイラ2基を高効率機器へ更新。 各施設改装時に、照明・空調を高効率機器へ更新。	52
その他		